

No	地区 学校	意見等内容				
		取組の考え方・進め方・スケジュール	教育環境	通学関係	地域づくり・コミュニティ	その他(市の施策、取組の根拠等)
1	荻野地域 荻野小学校 鳶尾小学校 上荻野小学校	<ul style="list-style-type: none">・途中から学校が変わってしまったり、登下校する際の安全面や距離などを考えると統廃合することに快く賛成はできない。しかし、人数が減ってしまっていることを考えると統合することは必然なのかと思う。その際の子どもへのケアや通学時の問題に最善をつくしていただければ、賛成ではないながらも受け入れようと思う。・政府の積極的な少子化対策の結果が出る前に統廃合を実行するのは時期尚早ではないか。特に過疎化の進む地域の小学校が廃校になってしまうと、小さな子どもが人通りの少ない道を長い距離を歩く必要が出てしまい、事件・事故に巻き込まれる可能性が上がってしまう。子どものことを考えた結果を期待している。・児童の通学の負担が増えないように、規模が小さくなくても、小・中学校は統廃合せず、維持されるべきと考えている。規模が小さいなら小さいなりに、運営内容を変更していけば良い認識。	<ul style="list-style-type: none">・法律で定められた学級編制の人数ではなく、そこはなんとか市独自で少人数学級を実施できるよう努力していただきたい。子どもを大事にする厚木市には、大変期待している。ぜひ小規模クラスを実現し、きめ細かい教育をお願いしたい。・学級数が少なくなればなるほど、子どもたちの人間関係も固定化し、何かトラブルが起きた時に困ると思う。また、学級数が少ないと教員の負担も大きくなると考えられるので、教員の皆さんが大変だと思う。・地域学校協働活動の推進が叫ばれる中、地域の子どもは地域で育てるという視点が大変大事なことだと思う。そうした流れの中で、学校が地域の拠点として果たす役割は大きなものがあることを考えると行政区内に最低でも 1 小・中学校が必要という基本的な考え方に立って適正規模・適正配置の取組を進めてほしい。	<ul style="list-style-type: none">・適正配置とはいえ、低学年児童にとって、一部地域では、学校までの通学方法に不安を感じるのではないか。スクールバス導入など具体的な準備ができてから再編成・統廃合を行ってほしい。そのための費用は税金を使用すべき。間違っても各家庭に任せるような判断は良くない。・適正規模・適正配置には基本的に賛成。ただ、通学時間・距離が長くなることが心配。歩いてくるのが難しい子どものためには、スクールバスなど何かしらの対策をお願いしたい。また、運動会や授業参観など親が学校に行く機会が多々あるかと思うので、学校の近くに駐車場を確保したり、車が運転できない人のために公共交通機関(バス・コミュニティバスなど)の充実をお願いしたい。・どの小学校を残すにしても、遠方からの通学になってしまう児童が出てしまうのではないか。スクールバスや駐車場を整備するなど、近隣住民の理解も必要。	<ul style="list-style-type: none">・荻野地区は厚木の郊外なので我が家の子どもたちは住みにくいと感じているようである。子どもが大きくなっても、また荻野地区に住み、今度は自分の子どもを育てても良いと思える環境が整っていれば良いと思う。・母校がなくなるのはとても寂しいことなので、廃校となっても校外学習や活動などで子どもたちが戻って何かできるような施設に変わってくれたらいいなと思う。上荻野小のぼうけんの森などとても良い活動ができた場所もいかしてほしい。・今後児童・生徒数が減少していく中、学校の維持管理、そして地域・まちづくりのために、例えば図書館の整備など、地域コミュニティ施設として考慮していただけたらと思う。・児童、生徒が減少している旨は理解できるが、小・中学校は、学校としての役割のほか、防災拠点としての役割もある。学校がなくなると、高齢者の避難の際の負担も大きくなるため、現状を維持すべきと考える。	<ul style="list-style-type: none">・市が子育てをしやすい環境を作ってこなかったツケが回ってきている。子どもが減ったから統廃合という考えは、あまりにも安直。就学援助等を手厚くしない限り何も変わらない。学校を無くしてしまうことにより避難先が減り、リスクが上がったり、近隣からするとメリットが何も無い。・個人的には小・中学校の統廃合等は仕方ないと思うし、受け入れるしかないと思っている。一方で、人口減少をそのまま受入れるのもいがかとは思う。平塚、海老名、茅ヶ崎エリアは人が多く、厚木からそこまで離れていないのに、この人数の違いは何故なのか。住みやすさ。駅が多い。商業施設の多さ。オシャレ。考える余地はありそう。・児童数の減少は少子化社会において避けられないものだが、子どもを増やす、若者を定着させる取組も重視すべきと考える。
2	小鮎地域 小鮎小学校 飯山小学校	<ul style="list-style-type: none">・小規模な学校のメリットをたくさん感じて親子共々過ごしている。統合し、片方を廃校にしてしまうのではなく、大規模、小規模、希望する学校への入学が認められたらありがたい。子育てに力を入れている厚木市をうたうのであれば、遠方の子どもにはスクールバス運用を実現し、柔軟な対応、選択の幅を用意していただきたい。・少子化によって児童・生徒数が減っていることから、学校の規模を見直すのは妥当だと思う。将来的には、かなり規模が小さくなる学校も出てくると思うので、そうなる前に適正規模への取組をお願いしたい。また、学校が減ることによってその学校の職員を他の学校にまわすこともできるので多忙化解消にもつながると思う。今を見るのではなく先を見据えての改革をお願いしたい。・日本全国で同じような状況が起きていると思われるので、その流れを見ながら物事を判断していくことが大切。特に物事は押し付けでなく、子どもたちを中心に考え判断していく必要があると思う。	<ul style="list-style-type: none">・小中一貫校はとても良い。小学校から中学校に変わる際の子どもの精神的ストレスが緩和されると思う。・公立の学校は、子ども自身が徒歩で通える所にあるのが望ましい。校舎を縮小した建て替えを行ない、無駄な維持管理費をなくするのが最優先。小規模なりの良さをもっといかし、存続を前提として、新しい未来の学校として、生まれ変わってほしい。・統廃合と併せて、教員の数を増やして多忙化の軽減、さらには少人数学級の実現が図られることを期待。・1クラスの児童数が少なければ、先生の目も行き届き、先生の仕事も楽になると思う。小中一貫校はいじめの延長やなれ合いなど、良くない面がありそう。	<ul style="list-style-type: none">・宮の里から飯山小まで通っているが、坂ばかりで、夏は日陰が全然無く、心配している。適正化されて小鮎小になったら歩かせられない。自分も中学は小鮎中だったが、小学生からの徒歩は危険過ぎる。交通量は多いし、川沿いは落ちる可能性がある。毎日個々で送り迎えをするのも無理だし、スクールバスが運行されない限り考えられない。・学校の統合はいいと思う。ただ、スクールバスの導入を考えてほしい。学校までの距離だけではなく道路の起伏も考えて導入してほしい。スクールバスが導入されないようなら統合については反対。また、保護者が学校に来校しやすいよう駐車場の確保も行ってほしい。・子どもが飯山小に通っていたが、通学に時間が掛かり低学年では 1 時間くらい掛かってしまうため、低学年が小鮎小までは、とても難しいと思う。まして、少人数となれば子どもたちだけで歩くのは、危検があるかも。	<ul style="list-style-type: none">・たとえ、小規模であっても、その地域に学校を残していくべき。学校が無くなれば、その地域は、ますます子どもが住まなくなり、高齢化が進み、地域としての活力も失われる。調整区域といっても、子どもが生活しやすい環境を整えるべきだと思う。・統廃合を検討する場合、廃校になる予定の学校の今後の使い方や使い道について検討し、意見や方向性のある程度踏まえた上で、統廃合の有無を決めてほしい。・各地域に小学校を維持すべきだと思う。小学校が無い地域は若い世代の人たちが住まなくなり、子どもたちが居なくなり、より衰退して行くと思う。児童が1人になるまで飯山小学校は残してほしい。	<ul style="list-style-type: none">・小鮎、飯山小学校区に子どもが少ないのであれば、対象となる地域に住む人に対しての助成金や固定資産税の減税など別の対策を講じて、人を迎える対策も考えるべきである。・このような議論、検討がないように市としての少子化対策について垣根を超えて各省庁、また官民で推進すべき。また、様々な世代で互助の精神が育まれる地域社会づくりを行う強いリーダーを求めたい。・市街化調整区域のため、若い世代が定住することが難しくなることは、あってはならない。畑があっても、管理をすることのできない世帯が多く、土地の無駄だと思う。もっと住みやすい環境を整え、子どものいる世帯を住みやすくすれば、地区の児童数が少なくなることもなくなり、学校の統廃合問題も無くなると思う。

No	地区 学校	意見等内容				
		取組の考え方・進め方・スケジュール	教育環境	通学関係	地域づくり・コミュニティ	その他(市の施策、取組の根拠等)
3	玉川地区 玉川小学校 毛利台小学校 愛甲小学校 玉川中学校	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間関係、多様な考え方に触れられるよう学校はある程度の規模が必要。そのためには少子化の中、統合も仕方のないことだと思うが、通学距離など負担が少なくなるよう対策は必要。地域とのつながりは広範囲にはなるが、それぞれ生徒の住む地域との交流を充実していけば良い。 人数が少なくなり、クラス替えがなくなることで人間関係があまり上手いかない際には、子どもが可哀想。しかし、統合により通学距離が延び、歩く・公共交通などを使うのは反対。スクールバス等の対応が不可能であれば統合しない方が良い。子どもたちの負担がないように考えていくべき。 小学生のうちは地区ごとに学校があったほうが親も子も安心だと思うが、中学生では地域ごとの配置となったとしても、生徒自身も環境になじめる年齢だと思うし、人数がある程度いる方が、部活動の選択肢が広がると思う。 玉川小は歴史のある小学校。環境もとても良く、統廃合すべきではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが通う中学校では、生徒不足、教員不足で昨今、部活動の廃部が続いている。すでに魅力のある部活動がほとんどない状態。再編するならば、教員も充実させ、部活動も活発な学校を目指してほしい。 今後PTA活動に参加出来ない共働き世代が増えることは(保育の必要な親の割合が増えていることからみて)絶対だと考えている。通学負担を減らしてほしいし、学童についても充実させるためのサポート体制の変更は必須である。その辺りを考えて統廃合を行ってほしい。 適正規模を念頭においた検討だけでなく、小中一貫教育の推進、障がい児インクルーシブ教育の推進など、様々な観点を考慮に入れて今後の学校の在り方を検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 統廃合になった場合スクールバスでの通学を検討してほしい。 中学校の編成を検討する場合、自転車通学も検討いただきたい。 統廃合を含む適正配置の流れは避けることができないと思うが、徒歩や自転車での通学にこだわらず、スクールバスの整備を含め、通学の負担軽減、安全確保を最優先にしていきたい。校舎の維持・修繕に比べれば、バス・運転手の確保等の費用負担は少ないと考える。 森の里小、玉川小の統合時においては登下校の道中で七沢隧道を通ることとなり、人通りも少なく犯罪防止、事故防止には最善の策を講じる必要がある。地域内から学校がなくなることはますますの子どもの減少となりかねないので、学校を維持する方向で検討いただきたい。 小規模な学校のデメリットから考えると、学校を適正規模にして、通学の手段を見守るはマイクロバス、生徒は自転車の利用にするのが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が遠いことで人口減少や増加などの偏りが進んでしまわないように検討した方がよい。 玉川地区から小学校が無くなる場合、地域の歴史や心の拠り所が無くなることだと思う。児童・生徒の減少は大きな課題ではあるが、住民の意見や思いを十分に汲み取って、取り組んでほしい。「小中一体型施設」は良い方法かと思う。 学校を統合しても、グラウンドは残して、行事や祭り、スポーツのために活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街化調整区域のため、小さい子どもが減ったのではないかと。市としてもそこを考えてほしいと思う。減らすことだけでなく、増やすことも考えてほしい。そうすれば統廃合も避けられるのではないかと。せっかく子どもに優しい市なのにもったいない。 日本全体で少子化であるため、玉川地区・森の里地区が特別なわけではない。地域活性化の取組が先決で、これ以上学校の通学も遠くなる条件ならば、あえて、住もうとは思わないだろう。庁舎、駅の周りばかりマンション等が建てられ、子どもが増えるため、周辺の学校はあふれる。庁舎、駅から離れた地域の開発をしないままでは、減少するのも当たり前。小さい学校は、とても経験豊かなものがある。決して社会が小さいわけではない。自転車通学や、スクールバスなどの方策も挙げられていたが、道の整備や、安全面が疑われる。公立学校離れも考えなければいけない。
4	森の里地区 森の里小学校 森の里中学校	<ul style="list-style-type: none"> 今後も子どもの数が減少する中で、統廃合した方のメリットが大きいと思うので賛成。小さな学校も良いが、多様な人間関係に触れることで学ぶことも大きい。学区が広がると少し心配だが、昔に比べ子どもの行動範囲も広がっていると感じる。SNSの普及など、地域を超えたつながりも大事になっていくと思う。 子ども自身が住む地区の小・中学校に通うことは、子どもにとって、通学の負担軽減だけでなく、地域への愛着や地域住民の人的ネットワーク構築に繋がると思うので、各地域内に学校を維持する方針で検討してほしい。 地区ごとに統廃合の基準を変えるべきだと思う。もともと森の里は研究学園都市をうたっていたはずで、その地区から小・中学校をなくすことは、他地区から小・中学校をなくすことと大きく意味が違う。研究学園都市としてテコ入れするどころか、その価値を失わせるような施策は避けていただきたい。少人数学級や公立小中一貫校など、研究学園都市として、少子化時代でも充実した教育を施せる街を目指していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 森の里小・中を併合して小中一貫として残してほしい。多様な人間関係構築のために周りの高校や大学そして企業との共催イベントを開催して盛り上げてほしい。 小学校は少人数で、一人一人の子どもをよく見ることができる。異学年も含めて学校全体で子ども同士が友達という関係も地域によってはあって良いと思う。人数が多ければ良いということでもない。 無理に統廃合を進めるより、小・中を一貫するなど視野に学校は残してほしい。クラスが減ったとしても、多学年が集うというのも魅力的な側面はあると思うし、必要に応じて他校との交流を図ることもできる。 小学校は必ずそれぞれの地区内に維持することが絶対必要。中学校はできれば維持してほしいが、統合することも1つの選択肢。又は、小・中学校9年間教育の場として一貫校と考えたらどうか。子どもの数が減るから学校を減らすと考えるので、新しい教育環境を考えたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> もし玉川小と森の里小の統合があるならば、七沢森林公園の坂道は子どもの足では大変だと思うし、暗くなると人が少なすぎて危険だと思う。スクールバスの運行を検討してみてもどうか。また、もし中学校の統合があるならば、自転車(アシスト付)での通学を可能にしてあげたら良い。 玉川地区と森の里地区は、七沢森林公園によって隔てられており、どちらに統合するにしてもスクールバスは必須だと思う。 通学時間が長くないこと。通学経路に危険が少ないこと。そのため通学手段を柔軟に運用すべきである。とにかく統廃合によって事故・事件に児童・生徒が巻き込まれないように配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校が統合されることによるメリット・デメリットが説明されているが、学校運営に限定されている。もっと広範囲の視点で検討すべき。小学校がなくなることによってその地域に新たに移住したいと考える若い世代の方が少なくなり地域の高齢化が更に進むことになる予想される。小学校に通う子どもを増やすための施策等を検討した上で判断すべき。 統廃合を進めることで、小・中学校の通学が困難になる地域は今後新たな住民が移り住むことにマイナス要因になり、市が率先してその地域の過疎化を助長することになる。整備された住宅街や、新たに宅地造成ができる地域であれば統廃合は早計なのではないか。 学校は、地域のコミュニティの要であると考えて。少子化の中、子どもたちの成育、学びは健全に守られるべきものである。ただ、当地域は高齢化の一途であり、森の里だけにとらわれず、玉川地区として考え、小・中学校の統合は考えても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会で「地域に小・中学校があるから森の里を選んだ。無くなると分かっていたら選ばなかった」という発言があったが、小・中学校が地域から無くなると若い世代の移り住みがなくなる。子どもが減っているから学校を無くすという受動的な対応では市の発展はない。子どもが減っている。だから、もっと子どもを増やすための施策を考える。という能動的で強い意思を持った対応が必要。 森の里地区から小・中学校のいずれかがなくなった場合、森の里地区の過疎化が加速することは免れない。市として森の里地区をどうしたいのか、工場でなく住人が増える施策を打つべきなのか、検討していただきたい。合理化一本やりの施策では厚木市から海老名市に住民が移動する可能性がある。 統廃合ばかりではなく、人口を増やすための誘致政策や交通の利便性の改善など、地域を活性化させるよう、教育総務課だけでなく、他の部や課と連携をとってほしい。